

てる 黙然たる反骨 安藤照

—没後・戦後 80 年 忠犬ハチ公像をつくった彫刻家—

Silently Rebellious ANDO Teru: The Sculptor of the Faithful Dog Hachiko's Statue

2025 年 6 月 21 日(土)～2025 年 8 月 17 日(日)

June 21, 2025 – August 17, 2025

入館料

一般 1,000 円 (800 円)、大学生 800 円 (640 円)、
高校生・60 歳以上 500 円 (400 円)、
小中学生 100 円 (80 円)

※ () 内は団体 10 名以上及び渋谷区民の入館料

※土・日曜日、祝休日及び夏休み期間は小中学生無料

※毎週金曜日は渋谷区民無料

※障がい者及び付添の方 1 名は無料

休館日

月曜日 (ただし 7 月 21 日、8 月 11 日は開館)、

7 月 22 日 (火)、8 月 12 日 (火)

主催 渋谷区立松濤美術館

会場 渋谷区立松濤美術館

〒150-0046 東京都渋谷区松濤 2-14-14

電話：03-3465-9421 HP：<https://shoto-museum.jp>

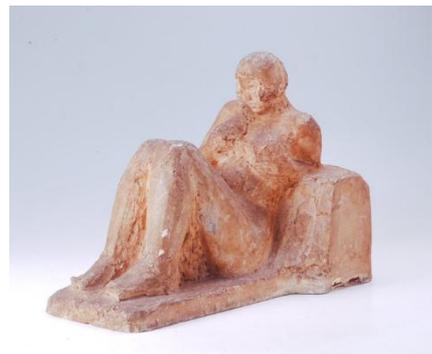
交通案内

●京王井の頭線 神泉駅下車徒歩 5 分 ●JR・東京メトロ・東急電鉄 渋谷駅下車徒歩 15 分

※駐車場はございません



① 安藤照《兎》制作年不詳
鹿児島市立美術館蔵



② 安藤照《女性仰臥像》1927(昭和 2)年
鹿児島市立美術館蔵

渋谷駅前のモニュメント《忠犬ハチ公像》(初代)の作者、安藤照(1892-1945)。没後 80 年を記念した本展は、彼の彫刻家としての活動を網羅的に紹介するはじめての展覧会となります。

安藤は、数々の彫刻家がしのぎを削った昭和時代の彫刻界で活躍を期待された存在でした。1917(大正 6)年に東京美術学校に入学し、在学中の 1921(大正 10)年に帝国美術院展覧会(帝展)で彫刻家としてデビュー。翌年に帝展特選、そして 1926(大正 15)年には帝国美術院賞を受賞するなど、はやくから頭角をあらわします。1927(昭和 2)年には帝展彫刻部の審査員に任命されたほか、1929(昭和 4)年には中堅彫刻家の作品研究の場として結成した団体「塊人社」のリーダーとして活躍しました。そして、1934(昭和 9)年には《忠犬ハチ公像》、1937(昭和 12)年には《西郷隆盛像》(鹿児島県鹿児島市)と、現在も語り継がれるモニュメントを制作し彫刻家としての地位を築いていきます。しかし、その道半ばの 1945 (昭和 20) 年 5 月、渋谷区代々木の自宅兼アトリエが空襲にさらされ、安藤もその犠牲となりました。

本展では、誰もが知る《忠犬ハチ公像》の影に隠れ、これまで語られる機会の少なかった安藤照の生涯について、戦火をのがれた現存作品約 30 点のほか、関連する作家の作品とともに迫ります。

激動の彫刻界、そして戦争に向かう不安定な時代の中でも「ただ黙々と仕事をして居ります」と語った安藤の作品は、時世の雰囲気にならうかのごとく、素朴で静謐です。激しくうつろう社会を生きる現代のわたしたちにとって、時代と黙然と戦った安藤の彫刻は新鮮に映ることでしょう。

第1章 梁山泊の中で —安藤照、彫刻家になる

安藤照は、1892(明治25)年に鹿児島県鹿児島市に生まれました。1915(大正4)年、鹿児島県立第二中学校(現・鹿児島県立甲南高校)を卒業後、早稲田大学商科へ進学するために上京。しかし、芸術家を志すために同校を退学して1917(大正6)年、東京美術学校彫刻科塑造部予備科に入学しました。同校で安藤は、親友となる堀江尚志や師の朝倉文夫など、安藤の人生に影響を与えた人々と出会います。仲間たちと切磋琢磨する中、同校在学中の1921(大正10)年、政府主催の公募展である帝国美術院第3回美術展覧会に《K女》を出品し、彫刻家としての一步をふみだしました。

本章では、安藤の初期作品にくわえ、彼のライバルであった同世代の彫刻家の作品を紹介します。



③ 安藤照《女の首》1923(大正12)年
鹿児島市立美術館蔵

師の朝倉文夫が主宰した第2回東台彫塑会の出品作。東台彫塑会賞を受賞した。みずみずしい造形が特徴です。

第2章 安藤照と動物彫刻

安藤照は動物が好きであったことから、動物彫刻を多く制作しました。そして、安藤が後年に結成した彫刻団体「塊人社^{かいじんしゃ}」の中にも小室達や村田勝四郎なども小ぶりの動物彫刻を制作した作家がいました。

彼らの作品は、当時の流行したアール・デコなどの造形とは異なる、無骨で質量やボリューム(量塊)を感じさせる彫刻です。自身の造形を突き詰めようとする作家の姿勢が伝わります。

本章では、安藤照と「塊人社」のメンバーの動物彫刻を紹介します。



④ 安藤照《ポイント第二》1931(昭和6)年
鹿児島市立美術館蔵

獲物を探しだす獵犬(ポインター)をモデルにした作品。静かなたたずまいのなかに、風格が感じられます。

第3章 鹿児島のために、渋谷のために

当時の彫刻家の多くは、郷里を出て東京や京都などの美術学校に通って彫刻家としての研鑽をつみ、卒業後はそこで開催される美術展覧会に出品を重ねました。一方で大都市を拠点に、生まれ故郷でも活動を展開し、地元の名士たちの肖像彫刻やモニュメントの制作にはげみました。

鹿児島県で生まれ育った安藤照もそのひとりであり、東京では団体展への出品をおこない、ふるさとの鹿児島県では、自身を支えてくれる人々のために作品を制作しました。

本章では、鹿児島ゆかりの作品や、渋谷を代表するモニュメント《忠犬ハチ公像》について紹介します。



⑤ 安藤照《忠犬ハチ公》制作年不詳
鹿児島市立美術館蔵

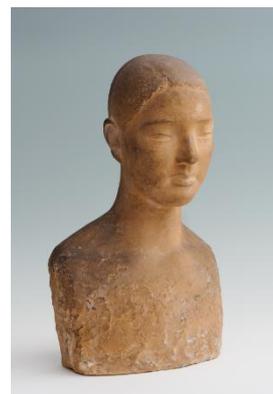
1934(昭和9)年完成の《忠犬ハチ公像》の建設募金活動の返礼用としてつくられたとみられるテラコッタ製のハチ公像。安藤の死後、アトリエ跡から発見されました。

第4章 「塊人社」結成 —アラウンド・安藤照

1926（大正15）年、安藤照は帝国美術院第7回展覧会で特選と帝国美術院賞を受賞したほか、翌年の第8回同展では審査員にも任命され、中堅彫刻家の中で一目を置かれる存在となります。しかし、1928（昭和3）年、第9回同展の審査員の選出をめぐり、師の朝倉文夫が自身を含む門下生全員の同展不出品を申し出ました。その後、朝倉文夫は帝国美術院会員を辞任。その責任の一端を負い、安藤も同日に審査員を辞するという大事件に発展します。

この騒動を発端として安藤とその周辺の仲間たちは「朝倉塾」を脱退しました。そして、翌年にこの脱退したメンバーを中心として「塊人社^{かいじんしゃ}」を結成しました。1931（昭和6）年に第1回塊人社彫塑会を開催しています。

「塊人社」は、「概して写実を基礎として、穏健なる手法を用ゐる、温厚なる作家の一団である」と評され、数ある団体の中で存在感を現していきます。



⑥ 安藤照《胸像》1935(昭和10)年
白根記念渋谷区郷土博物館・文学館蔵

安藤は、古代エジプトや古代ギリシャ、ローマ時代の作品に倣った作品を制作し、それが「塊人社」全体の作風となっていきました。

本作の杏仁形の目や簡素化された造形からは古典的な作品からの影響がうかがえます。

第5章 迫りくる戦禍 —安藤照の死

安藤照は彫刻界でキャリアを着実に積み重ねていきますが、時代は太平洋戦争に突入し、徐々に軍靴の音が忍び寄ります。戦争の中でも安藤は、以前と変わらぬ素朴で静謐な作品を黙々とつくり続け、自身の道をつらぬこうとしました。しかし、彫刻家も戦争へ協力しなければならない圧力は次第に強まっていき、1944（昭和19）年に安藤は「塊人社」の社員で軍需工場「軍需造形」を立ち上げ、日立航空機の下請として戦闘機の部品の石膏型を製作するようになりました。

そして、翌1945（昭和20）年5月24日と25日にかけての大空襲（山の手空襲）が安藤を襲います。多くの作品を保管していたアトリエも爆撃されたことから、重要作のほとんどが焼失しました。享年53。道半ば、非業の死でした。

本章では、1931（昭和6）年の満州事変から1941（昭和16）年の太平洋戦争開戦、そして1945（昭和20）年の安藤の死までを追っていきます。



⑦ 安藤照《裸婦座像》1942(昭和17)年
鹿児島市立美術館蔵

第11回塊人社彫塑展に《形態理》という題で出品された作品。本作が制作された1942(昭和17)年には、すでに太平洋戦争が開戦しており、彫刻家にも戦争への協力が強く求められた時代でした。そうした風潮の中でも安藤は自身の素朴な作風を貫きました。

夏休みは子ども用パンフレットで「安藤照」展を楽しもう！

7月12日（土）から中学生以下のお客様には子ども用パンフレットを配布します。
ご利用の方は受付でお声がけください。

※展覧会の会期・開館時間・イベント等が変更・中止となる場合がございます。
最新情報は当館HPまたはSNS等でご確認いただきますようお願いいたします。

イベント情報

事前申込制イベント① 記念講演会「戦時期の彫刻」

日時：7月27日（日）午後2時～（約1時間） 地下2階ホール

講師：平瀬礼太氏（愛知県美術館 館長）

* 無料（要入館料）

* 定員70名（事前申込制、応募者多数の場合は抽選）

★締切（必着） 7月7日（月）

事前申込制イベント② 夏休み子ども美術教室

「渋谷で鑄造体験！？メタルのメダルをつくろう☆」

金属を溶かして固めてオリジナルのメダルをつくります。

日時：8月1日（金）、2日（土） 各日午後3時～ 所要時間：1時間30分～2時間程度

講師：伊藤一洋氏（彫刻家）

対象年齢：小・中学生（保護者同伴可）

場所：地下2階ホール * 定員：各日14名（事前申込制、応募者多数の場合は抽選） * 無料

★締切（必着） 7月14日（月）

その他イベント（事前申込不要）

●手による鑑賞：彫刻をさわって楽しもう！

安藤照とともに「塊人社」で活躍した村田勝四郎の彫刻（当館蔵）を学芸員と一緒にさわりながら、彫刻鑑賞のポイントを解説します。お子さま大歓迎！

日時：8月9日（土） 午前の会：午前10時～12時 午後の会：午後1時～3時

会場：地下2階ホール ※直接会場にお越しください ※無料（要入館料）、事前申込不要

●展覧会担当学芸員によるピンポイントトーク

お昼前のさわやかな時間帯に安藤照展を楽しみませんか？ 各日、展覧会の内容を掘り下げたテーマについてお話しします。

7月11日（金）：安藤照ってどんな人？

7月20日（日）：激動！昭和時代の彫刻界

7月26日（土）：安藤照と「塊人社」

各日午前10時30分～ 約40分

会場：地下2階ホール ※直接会場にお越しください ※各回定員60名（先着順） ※無料（要入館料）、事前申込不要

●館内建築ツアー 白井晟一設計の美術館建築を職員がご案内します。

6月27日（金）、7月4日（金）、11日（金）、18日（金）、25日（金）、8月1日（金）、8日（金）、15日（金）

各日午後6時～（約40分） * 各回定員約20名 * 無料（要入館料） * 事前申込不要

◇次回展覧会のご案内◇

井上有一の書と戦後グラフィックデザイン

1970s-1980s

2025年9月6日（土）～11月3日（月・祝）



井上有一《花》1957年 墨・紙 井上有一記念財団蔵

報道関係のお問い合わせ

広報担当（白石）：pr-sma@shoto-museum.jp 電話：03-3465-9421 FAX：03-3460-6366

* 画像をご希望の場合は、作品名の前にある番号をお知らせください。

* 画像のご利用後、データは破棄してください。* 画像の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。

* 基本情報確認のため、一度校正をお送りください。* 掲載後、見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。